第54回メーデー

働くものの団結で生活と権利・平和を守ろう

第五十四回大牟田地区メーデーは間断なく降り続く雨の中で、午前十時から笹林公園で地評加盟の組合員、社・共両党、民主団体など約四千人が参加して開かれました。

城之内地評会長が、謀略的な選挙違反で不当逮捕されているため、かわって森田副会長（三池労組組合長）が「城之内会長の逮捕は全く不当なもので許せない。後半戦の政治決戦はこれから、団結を強めて頑張ろう」とあいさつ。つづいて県評代表、長谷川社会党代表、久後共産党代表などがあいさつのあと、さきの市長選に立候補した蓮尾信治郎氏があいさつしました。

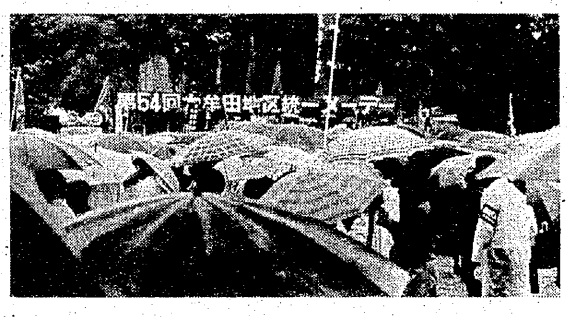
集会は、このあと決議・宣言などを採択し、市内のデモ行進に移り、大牟田署前では「警察の横暴を許すな」「不当弾圧反対」「城之内会長を返せ」などのシュプレヒコールを繰り返し抗議しました。

なお会場ではプラカード展が催されました。

荒尾地区メーデーは、同じく雨の中で四山児童公園で午前十時開会。式島会長のあいさつのあと、浦浜社会党代表、上野共産党代表、酒井県議などがあいさつ、決議・宣言などを採択し、集会を終わりました。

なお荒尾地区では四月三十日にメーデー前夜祭が荒尾市公会堂で催されました。

デモ行進する先頭集団（不知火町歩道橋附近）



笹林公園の会場いっぱいに傘で埋まった大牟田メーデー集会

デモ行進は中止されたが雨の中で開かれた四山児童公園での荒尾メーデー集会

あほンだら

芝岡如友徳

なかま

十一分会（三川）　椛島敬三さん

○…昭和三十八年の三川鉱大災害で、父親の貞一さん（当時五十三歳）を失くし、入替採用で三十九年三月入社。通称「椛ちゃん」は、それまで名古屋の三菱重工で航空機関係の工場で働いていた。長男なので一家の大黒柱として父のあとを継いだ。

坑外職場の製缶場で十五年。今は仕上場でセーパーの仕事をしているが、熔接の腕前はたしかなもので、三池労組の中では若い方から四番目。

○…子煩悩の「椛ちゃん」は、子供の将来を楽しみに職場分会の委員として頑張っている。

組合運動について「組合員も少なくなっていくが、いつまでも大組合のつもりでは駄目。意見はいろいろあるが、決めたことは守るという組合民主主義が必要だ。仲間の悪口を言い合うのはやめること。働く者はみんな仲間だから……」

○…趣味はサツキとカメラ。サツキは始めて五年だが、鉢が五十に地植えが二百も。今が盛りで「朝起きするのが楽しみ」とのこと。

カメラの腕は玄人はだしで、五十一年、五十二年と連続して『桜まつりコンテスト』で市長賞を受賞した。

二人の子供は絵が上手で、たびたび県の表彰を受けている。子供の話しになると小さい目がますます細くなる。

（田中精一・記）

椛島さん（38）は、大牟田市小川町30番地のアパート（501～12）で、奥さんの佐和子さん（30）、長男洋介くん（小1）、二男亮治くん（園児）、母カネ子さん（71）の5人暮らし。

第54回 中央メーデー宣言（要旨）

長びく世界不況、大量の失業者、拡軍核など、国際的なかげりが一層ひろがるなかで、我々は一九八三年メーデーを迎えた。

当面のもっとも緊急な課題は、内需主導による景気の早期回復であったが、今春闘では早くから経営者側から賃金抑制策が打ち出され、かってなく情勢は厳しい。いまなお多くの闘いが継続中であり、今年こそ人勧や仲裁の完全実施をかとらねばならない。こうした停滞状況の中で、格差は拡大し、失業者は増加し、雇用不安は増大。大型間接税の導入も目論まれている。

我々は、一兆円所得減税の即時実施、実質賃金の向上を中心とした生活の向上・安定と福祉型経済への転換を強く要求する。中曽根内閣は、日本経済と国民生活の危機をかえりみないばかりか、軍拡・改憲路線に突き進み、極東平和への新たな不安をつくり出しいる。米ソ中心の核軍拡競争が国際緊張を高めているが、これ以上世界の平和を危機の淵に追いやってはならない。

核兵器廃絶・平和擁護の国際的運動は大きく高揚しており、我々の反核・反戦・平和の闘いは、この地上から戦争の危険がなくなるまで燃やし続けねばならない。我々は核軍拡競争に反対し、非核三原則堅持、被爆者援護法実現を強く政府に要求し、非核都市宣言などの闘いをねばり強くすすめるものである。中曽根内閣の極めて危険な反動に対し、我々は八三年国政選挙に勝利し、痛烈な審判を下さなければならない。我々は、今次メーデーのスローガン、要求・行動目標の達成にむけて、一致団結し、総力をあげて闘うことを、ここに宣言する。

やすさんのおもしろ憲法講座③

米の雇い兵は危険

星野安三郎

中曽根さんがアメリカにいって、日本列島を「不沈空母」にするといった。日本を沈まない航空母艦、軍艦にし、戦争をするための島にしようということになった。

日本国民が、戦後、平和憲法の制定で誓い合ったのは、もう軍艦はいやだ、日本を漁船と汽船が往き来する平和な島にしようということだったわけよ。それが朝鮮戦争、ベトナム戦争でおかしくなり、いまや「不沈空母」列島だ。

こうなると、一番大事にされるのは軍人だよ。軍事費突出、福祉切りすては当然となり、老人はじゃま者視されていく。旧軍隊のある職業軍人の話だが、「軍人は山や川の自然をみても美しいとは思わない。川の深さは、流れの速さはどのくらいかと、兵隊が歩いて渡れるかどうということしか考えない」

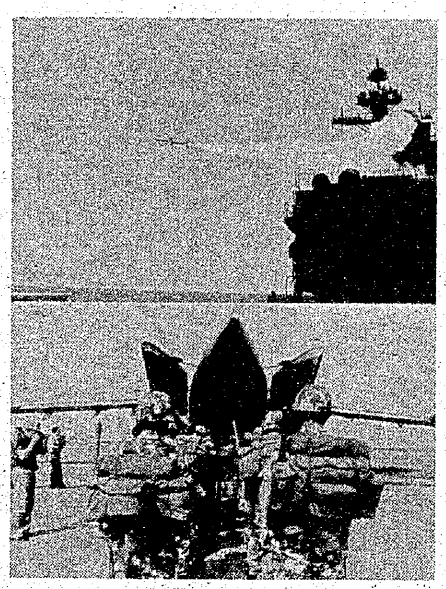
だから、川で魚釣りをしていると、川の流れや深さを測っているのではないかとスパイ視されたりする。第二次大戦の沖縄戦の時、沖縄弁でしゃべっているとスパイと思われた。本土からきた軍人には沖縄弁はわからないからね。

戦前は、日本はまさに〝不沈空母〟で、その総司令官は天皇だった。今度はレーガン米大統領が最高司令官で、中曽根首相は艦長、守るのは日本でなくて、米国を守る。米国を守るために、対ソ連戦に備えた前進基地にするということになるわけよ。

昨年十二月、北海道で自衛隊が米軍と合同演習をした。テレビでその模様の一部を放映したが、英語で演習しているんだよね。作戦計画は英語になっているのよ。もし、政府がいうように自衛隊が専守防衛で、米軍は助っ人というなら、日本語で訓練をしなくちゃいけない。これはもう、自衛隊は米国のやとい兵（傭兵）になってきている、単に憲法違反というだけでなく危険な存在になってきているというべきだ。

（おわり）

（星野安三郎氏は憲法学者で立正大学教授）



海上自衛隊（上）と陸上自衛隊の演習